



2018・7・21

第 312 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

教訓に学びあいつつ 3000 万の目標達成へ

「北朝鮮の脅威」なお一防衛白書

19、20 日、マスコミ各社は本年の『防衛白書』素案について報じました。以下は NHK19 日 19 時ニュース。

× × × ×

ことしの防衛白書の素案がまとまり、北朝鮮をめぐるのは、日本を射程に収める弾道ミサイルの実戦配備の現状などを踏まえれば、「これまででない重大かつ差し迫った脅威であることに変化はない」として、弾道ミサイル攻撃への総合的な対処能力を強化していくとしています。

ことしの防衛白書の素案では、北朝鮮をめぐるのは、先月の米朝首脳会談で「キム・ジョンウン（金正恩）朝鮮労働党委員長が、朝鮮半島の完全な非核化に向けた意思を文書の形で明確に約束した意義は大きい」としています。

一方で、日本を射程に収める弾道ミサイルを数百発、実戦配備し、核・ミサイル開発を進展させてきた現状を踏まえれば、「日本にとって、これまででない重大かつ差し迫った脅威であることに変化はない」と指

西日本豪雨

被災者の皆様に

心からのお見舞いを申し上げます

九条の会 事務局

摘しています。

そして、新型迎撃ミサイルシステム「イージス・ジョア」の導人などを通じて、「弾道ミサイル攻撃への総合的な対処能力を強化していく」としています。

また、中国については「国防費の高い水準での増加を背景に、核・ミサイル能力や攻撃への海上・航空能力を中心とした軍事力を広範かつ急速に強化しており、今世紀中頃までに世界一流の軍隊にする目標を持っている」と指摘し、「地域や国際社会の安全保障上の強い懸念」だとしています。

防衛白書は来月にも閣議で報告され公表されます。

点字署名 1600 人の成果踏まえ

【視覚障害者 9 条の会】 「だめダメ戦争する日本」「つなごう！あなたと声・ちか

らを」—横断幕が翻ります。視覚障害者9条の会（世話人・田中章治さん）は7日、東京都北区のJR赤羽駅で、安倍9条改憲No.1 3000万人署名を訴えました。

同9条の会は障害者の間で「点字署名」を1600人分集めてきました。街頭で訴えるのは今回が初めて。埼玉、東京の会員9人が参加しました。

白杖（はくじょう）とペンを一緒に持つ人、盲導犬とともに行動する人が声を出し訴えました。署名に応じた会社員の男性（34）は「憲法改正も戦争も反対。単純に人殺し反対」。女性（82）は「安倍反対。ひどい、嘘つき。戦争体験があるので反対は当たり前よ」と話します。

会員の山城完治さん（62）は「戦争は障害者にとって最大の暴力。9条が必要」。田中章治さん（72）も「9条改憲で自衛隊は地球の裏側まで派遣され、殺し殺される関係になる」と危険性を強調しました。

地下で渦まく国民の怒り表面に

【マスコミ9条の会】 「安倍政権の末路」と題する講演会が14日、東京都内で開かれ、メディアに身をおいてきた3人が安倍政権の疑惑隠し、外交問題、憲法改正、メディア規制などについて語り合いました。マスコミ9条の会、日本ジャーナリスト会議（JCJ）の主催。会場いっぱいの約200人が参加しました。

立教大学の砂川浩慶・社会学部メディア社会学科教授は「安倍政権のメディア規制史」として発言・テレビ番組内容への介入など、安倍政権がメディア規制を強めるなかでメディアの萎縮が広がり、報道の自由

度ランキングも2010年の11位から現在67位にまで落ちていると危機感を示しました。

元TBSニュースキャスターの杉尾秀哉参議院議員は「反アベ、親アベ」でメディアや市民同士を「横でたたきあわせる」ことで「メディア、世論、国民の分断」「統治する側にとって都合のよい構図」が生み出されていると指摘しました。

ジャーナリストの青木理氏は、多くの人が安倍政権へ怒りをもちながらも、あきらめもあることについて「地下でマグマのような国民の怒りがたまっている。何かの拍子に一気に変わる」として韓国の民主化運動の歴史などについて話しました。

不動尊参道での訴えに60人署名

【東京都日野市／市民アクションひの】 東京都日野市で7日夕、「市民アクションひの」は、京王線・高幡不動駅前で「ピーススタンディング七夕」に取り組みました。「日野市民9条の会」や各地域の「9条の会」、「新婦人日野支部」などから約70人が参加しました。

参加者は「平和の歌」などをアコーティオンやギターの伴奏で歌いました。「9条改憲反対」ののぼりや横断幕も多数掲げられ、市民が次々にマイクを握りました。

高幡不動尊参道にはたくさんの人出があり、2時間で60人を超える『安倍9条改憲No.1 3000万人署名』が集まりました。

日に日に高まる安倍政治への怒り

【青森県／青森県九条の会】 「隠ぺいと改ざん、疑惑・不祥事、でたらめだらけの安倍政権に憲法を語る資格なし。9条改憲

は断じて許さない」と青森県九条の会は 11 日、青森市新町商店街でよびかけました。

「安倍 9 条改憲 NO!」「3000 万人の声を届けよう」と書かれた大型ポスターやノボリを掲げ、19 人が参加。3000 万人署名に足を止めた市民と積極的に対話をし、署名を広げました。

呼びかけに応じ署名した伊藤恵子さん (69) は、頬を膨らませて怒りの声を寄せました。「若い人も、高齢の人も一緒になって、憲法守れと声をあげているのに耳を貸さないのが安倍政権。安倍 (首相)、こっちを見ろ。声を聞けと言いたい」

参加者の前で立ち止まった男性 (60) = 茨城県在住=が「自民党のやり方はダメだよ」と声をかけてきました。安倍政権に抱いていた怒りを参加者と語りあって意気投合した男性は、「『署名? もちろん書きますよ』と笑顔でペンを走らせました。

対話になった参加者へ「ありがとう」と言葉を送った女性 (70) は「安倍さんは、私たちが考えても無駄と言わんばかりに、なんでも強行採決。そのやり方は間違っているとりたいし、私は本当のことを知って考えていきたい」と語りました。

3000 万署名達成へ決意表明

【新潟県／市民アクション・総がかり実行委】 改憲ストップと安倍内閣の退陣を訴えて 19 日昼、新潟市中心部の NEXT21 前で「怒りの 19 日行動」がありました。市民アクション@新潟と総がかり行動実行委員会の主催で、リレートークと改憲反対 3000 万人署名が取り組まれました。

県 9 条の会・事務局長の工藤和雄弁護士

は、朝鮮半島に平和の運動が起こっており、その立役者は紛れもなく韓国の文大統領だと指摘。「朝鮮半島で始まったこの平和の歩みを、私たち日本国民も支えていこう」と訴えました。

平和運動センターの斎藤悦男議長は、安倍政権が着々と改憲に向けた準備を進めていると指摘。「われわれもしっかりと運動を進めていこう」と訴えました。

憲法センターの佐藤一弥代表は、県内で 3000 万人署名が 25 万人分集まったと報告。「勝負はこれから。市民と野党の共闘で、安倍首相の改憲の野望をやめさせよう」と訴えました。

ナインにいがたの横山由美子共同代表は、「災害救助で奮闘する自衛隊員が、戦場で人殺しになることを誰も望んでいません」と訴えました。

署名に応じた年配の女性は、「兄をガダルカナル戦で亡くしました。きょうは孫のため、戦争は起こらないでほしいとの思いで署名しました」と語っていました。

各党代表がリレートーク

【奈良県橿原市／橿原市 9 条の会】 橿原市 9 条の会は 16 日、「安倍 9 条改憲にとどめを」と近鉄大和八木駅前で集会を開き、40 人が参加しました。

水谷和宏同会代表世話人が、「アメリカの起こす戦争に日本が加担する危険な動きを止めるには、3000 万人署名を集め、安倍内閣を退陣に追い込むことだ」と訴えました。

市民連合奈良事務局の池本昌弘氏は、「暴走する安倍政権から、憲法と今の平和を守り通すために、今後も取り組みを進めてい

きたい」と連帯あいさつしました。

県内の政党から、共産党のかまの祥二参院奈良選挙区候補、新社会党の森川満副委員長、立憲市民フォーラム呼びかけ人の渡辺哲久氏が連帯あいさつし、国民民主党の藤野良次代表がメッセージを寄せました。

参加者は、横断幕を先頭に「憲法9条を守れ」「安倍内閣は退陣せよ」「国民の利益にならない法案やめろ」とコールしながら、橿原市役所までデモ行進しました。

戦争体験聞き決意新たに

【さいたま市緑区／九条の会はらやま・九条の会おまぎ】 緑区九条の会はらやまと九条の会おまぎは14日、戦争体験を聞き、平和を引き継ごうと、同区で「憲法と文化のつどい」を開き、70人が参加しました。

九条の会はらやま世話人の保崎優（まさる）さん（87）が戦争体験を語りました。保崎さんは現在の静岡市葵区で育ち、小中学校で軍国主義教育を受け、1945年4月から山の中に本土決戦に備えるための坑道を掘り、大砲の弾を運び入れるなどの任務にあたるなかで、終戦を迎えました。

保崎さんは「今、軍国主義の時代に近づいている」と話し、憲法や民主主義を壊す自民党政治を批判。「戦争をやって国民を守るなどできない。日本国憲法はすばらしい。守っていきましょう」と語りました。

若者との対談コーナーで、「若者に伝えたいことは」と問われた保崎さんは「これからの主役は若い人。平和でないと人の幸せはつukれない。みなさんが民主主義をつくってほしい」と話しました。

草加市の「ダンサー9条の会」のメンバ

ーが「平和の祈り」を込めたダンスを披露し、会場を沸かせました。

「憲法食堂」でざっくばらんに

【徳島県／徳島大学】 学生たちが憲法についてざっくばらんに話し合う「憲法食堂」がこのほど徳島市の徳島大学で「開店」しました。学生、市民ら約60人が参加し、「改憲派の考えとは」をテーマに話し合いました。同実行委員会が主催。

エプロン姿で料理人に扮した徳島大学の響場和彦教授、上地大三郎、瀧誠司両弁護士が改憲派の考えについて情報を提供。学生たちは用意されたおにぎりをほおぼりながら、熱心にメモを取っていました。

瀧、上地両氏が自民党改憲草案、安倍9条改憲案について解説。瀧氏は「草案は、国民は国の発展に寄与せよというもので、国民が主人公の現憲法を180度転換するものだ」と指摘し、上地氏は「(安倍改憲案は)自衛隊の活動拡大の歯止めがなくなり、権力乱用の危険性がある」と批判しました。

班に分かれての討論では活発に意見が出されました。藍住町の学生、堀江浩輝さん（22）は「9条改憲で軍隊を持てば、行きつく先は戦争になり、取り返しがつかない。政治家の利益のための改憲では日本はよくなる」と語りました。徳島市の女子学生（19）は「共謀罪や森友・加計疑惑などの安倍首相の対応を見ると、今の政府は信用できない。歴史を踏まえてできた憲法を変えたくない」と話しました。

憲法食堂は安倍政権の暴走に危機感をもった徳島大学の教員や学生、弁護士らで、2014年4月から続けられています。